

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年11月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677700108
法人名	社会福祉法人 聖光会
事業所名	グループホーム 蒼水園
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町根占山本1250番地1 (電話) 0994-24-3100
自己評価作成日	令和3年10月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設している特別養護老人ホームやデイサービス施設との医療連携及び嘱託医による定期的往診、受診、並びに緊急時24時間対応の往診等により他施設との差別化を図っている。
それぞれのユニットは画一的な体制を築きながら、各々が独自性のあるサービスを追求し、それらの情報を共有する事でスキルアップに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は母体の特別養護老人ホームに隣接し、法人内の協力体制が築かれている。
- ・協力医療機関と24時間医療連携体制が整っている。
- ・毎月1回、蒼水園事業として、認知症カフェを開き楽しんでいる。
- ・情報誌やグループホームだよりを発行し、利用者の生活を家族等に報告している。
- ・事業所の看護職員や特別養護老人ホームの看護師の協力を得て健康・医療面に置いて本人や家族の安心につながっている。
- ・職員は利用者とゆっくりと向き合う時間をつくり、笑顔が見れる支援に努めている。
- ・職員は研修会参加や自己研鑽に取組み、資質向上を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を目につく場所に掲示し常に意識して業務にあたるようにしている。そして、毎月のグループホーム会議では職員全員で唱和し意識付けを行っている。	理念はホールや事務所・玄関・トイレに掲示している。会議の時、唱和し意識づけをしている。理念を共有し地域から相談を受けたり地域との関わりを大切にし理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との行事は行えていないが、ご利用者と職員のみクリスマス会は行う予定である。	町の情報は利用者にも配っている。コロナ禍にあり花火大会・校区運動会・老人会運動会は中止になっている。利用者は自由に敷地内を散歩して桜を見たり、毎月1回の認知症カフェを開き個々に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	10月27日～29日に鹿屋養護学校の実習生の職場体験学習の受け入れを行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域住民代表や行政の介護福祉課職員、家族等が参加し事業所状況や事業実施報告を行い、参加者より意見、要望等を聞き施設運営に活かすようにしている。2か月に1回開催している。</p>	<p>感染症対策を行い2ヶ月毎に開催している。ホームの行事や介護度の情報等を報告している。委員から意見や要望を聴き、運営に活かしている。コロナの状況次第で合同クリスマス会の計画等がある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>町主催の研修会、連絡会等への参加や運営推進会議にて行政職員からの情報収集等を行っている。</p>	<p>介護保険の申請やケアマネージャー連絡会等に出向いて、困難事例等を話し合っている。運営推進会議でも情報をもらっている。町主催の研修会に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>毎月施設で行われる身体拘束廃止委員会に担当者が参加しグループホーム会議にて研修報告を行い知識を深め身体拘束をしないケアを実践している。</p>	<p>身体拘束廃止委員会が月に1回あり、言葉の拘束も含め、身体拘束に係る事例などホームで研修報告をしている。昼間は玄関の施錠はしていない。外出したい時は職員が同行し、拘束しないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月施設で行われる虐待防止委員会に担当者が参加し、グループホーム会議にて研修報告を行い知識を深め虐待をしないケアを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護等の研修には出来るだけ参加するようにし、研修があったときにはグループホームの会議上で報告し理解するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所の際の契約については十分な説明を行い納得してもらっている。契約書や処遇加算等による料金の変更等は家族会が開催されないため文書で説明し、同意書を返送してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	以前は家族会を半年に1回(年2回)開催し意見、要望等を聴く機会を作っていたがコロナ禍により昨年より行えていない。また、意見箱を設置して伝えやすい環境を作っている。意見要望等があった時には会議にて検討し改善に取り組んでいる。	利用者からは日常の関わりの中で意見や要望をくみ取るようにしている。家族からは家族会の時に対応している。個別面談も行っている。遠方の家族にはホーム便りを送って電話で思いを聞いている。職員の声かけについての要望があり対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月のグループホーム会議に施設長、事務長も出席し、職員も意見、要望等を出し合い運営に反映させている。</p>	<p>常日頃からコミュニケーションを大切に信頼関係を作り、思ったことを言えるように努めている。運営に関する内容をミーティングの事前にも書いてもらい会議で話し合っている。車の購入や研修会参加・資格取得の要望等があり、意見は運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の労働意欲を高めるために人事効果制度を活用し適正な処遇に努めている。毎年ストレスチェックも行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修には積極的に参加の機会を設けて、受講後にはグループホーム会議上にて報告を行い、知識を共有し各々のスキルアップを目指している。新入職員にはオリエンテーションを実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍で行えていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの情報収集は難しい面もあるがご家族や入所前に利用されていたサービス事業所等からも情報を得て、本人やご家族が安心出来る環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に準備する物や必要な物を連絡して、不安の無いように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の健康状態や精神状況、を確認し様々な情報等を考慮しながら、行うべき支援を見極めてご提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で洗濯物たたみ、テーブル拭き、茶碗洗いなどできる事を職員と一緒にこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会が出来ていない状況であるが電話、SNSなどを使い連絡を行っている。不調のあるときはすぐに連絡している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出もままならないが外部の方と接触ないようにして外出している。ご利用者希望時はお墓参り、自宅訪問など行っている。	コロナ禍で馴染みの関係や地域・外部との関係継続が難しい為、電話をかけたり施設だよりを毎月発行し関係者に配布している。ドライブで住んでいた所に出かけたり、車の中から墓参りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日やお祝い事はご利用者全員でお祝いをしている。また、季節の行事を行ったり、日常的には一緒に歌をうたったりゲームをしたりして皆が楽しく過ごせるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、問い合わせや相談にいつでも対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族に生活歴、想いなどの話しを聞き本人の願いを考えて支援している。	利用者がくつろいでいる時にタイミングを見計らって話したり、昼のゆっくりした時間に、ソファに座り、生活歴や家族の情報から、思いや暮らし方を聞いている。食べたいもの等、具体的に話しを聞き、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、そして利用されていたサービス事業所等から情報収集し、ご本人の希望に添ったケアプランを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有をし、ご利用者が戸惑いがないようケアを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスを行い情報共有を行い、介護計画に生かしている。	毎月カンファレンスを行い利用者個々の情報を職員間で話し合っている。全盲の利用者のケアプラン、難聴の利用者への対応等、情報を共有して介護計画を作成している。変化があった時はその都度、計画を変更している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の状態観察から、異常等があった時には職員間で検討し、支援の変更などがあった時には支援の結果を踏まえて、介護計画の見直しに生かすようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>新たな支援が必要と判断した時には関係各位との協議を行い、サービス提供出来るように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>今年はコロナ禍により消防署立ち合いの防災訓練のみ行った。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人やご家族の要望、意見を尊重し、かかりつけ医を決めて頂いている。緊急時でもかかりつけ医に連絡し対応できる体制を整えている。</p>	<p>契約時、かかりつけ医の希望を家族に相談し、受診の支援をしている。協力医療機関も近くにあり24時間医療連携体制が整っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	看護職員にて対応しているが不在の時は併設施設の看護師に対応してもらっている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時にはご家族を交えて病院関係者と情報交換を行っている。退院前には医療機関より情報提供をしていただき環境を整え、希望があればグループホームから迎えに出向くこともある。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入所時に説明を行い、そして重度化した場合には再度ご家族と終末期の対応について話し合いを行い、かかりつけ医、施設長にご家族の意向を伝え希望に沿った対応を行っている。	重度化や終末期に向けた方針を入居時に家族へ説明をしている。看取りについては主治医と話し合い同意書を貰っている。食事が摂れなくなったり、医療行為が必要になった時は特別養護老人ホームか医療機関へ転移も可能であるが、ホームでできるぎりぎりの支援に取り組んでいる。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	緊急時のマニュアルを作成し対応している。普通救命講習を職員全員、受講している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設している各事業所との防災訓練を毎月内容を変えて行っている。年1回消防署立ち合いの夜間火災避難訓練を行い職員全員でスキルを磨いている。地域との連絡体制も整えている。</p>	<p>年1回消防署の指導の下、夜間想定火災避難訓練を実施している。防災訓練を近所や地域へ案内をしたり、近隣の住民が連絡網の中に組み込まれている。災害時の食料等の備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声掛けに気をつけ職員同士お互い意見を言えるような関係性を作っている。	接遇マナーを勉強し、言葉遣いや呼び名・入浴介助等、人格を尊重し、プライバシーに配慮している。トイレへの誘導は、声かけなど周りに気づかれないようにさりげなく支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活における様々なご本人の想いは自己決定されている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が意思を尊重しながら余暇活動を支援しているが、職員の状況によっては対応が難しい時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣類の選択はご本人に確認をとっている。職員で散髪を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の料理を提供し、タケノコの皮むき、つわむき、梅干し作りなど馴染みのある家事の手伝いなどしていただいている。年末には『手打ちそば』を作り年越しを行っている。	旬の食材を取り入れた献立を作成し食の形態にも気配りして、とろみ食・きざみ食等を提供している。干し柿作りもしている。年末の年越しそば・おせち・行事食にも力を入れて食事が楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量、食欲の確認を毎日行い、それぞれの状態を確認しながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行いそれぞれに合った支援を行っている。夜間は義歯洗浄剤に付け清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者ごとに排泄間隔を把握して支援を行っている。リハビリパンツや尿とりパット等も本人に合ったものを検討し使用して頂いている。	個々の排泄パターンを把握しチェック表を記録している。体調の状態やトイレタイミングをみて声かけ誘導している。昼間はトイレでの排泄を支援している。利用者に合わせて夜間はポータブルトイレや尿取りパット・布パンツ等、個々に合わせて使用している。便秘対応の食材も工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄状況を把握し腸内環境を整えるヨーグルトや間食、食事を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回入浴をして頂いている。入槽の際は温度計で適温を調整し、入浴剤を使用して快適な入浴が出来るように努めている。	入浴は週に3回、午後にゆっくり入っている。好みで入浴剤を使用している。快適な時間を過ごせるように、話題を作りながら入浴を楽しめるようにしている。入浴拒否のある場合は時間や職員を変えたり無理強いないで、個々に応じた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は殆どホールにて過ごして頂いているが希望があれば居室にて過ごされる等、自由にして頂いている。空調管理や布団なども季節に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬には飲み忘れの無いように管理をしている。また、塗り薬も浴室や各居室に置き塗り忘れの無いように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の好まれるレクリエーションを取り入れ、歌唱やドライブ、読み聞かせ等を行っている。また、料理の手伝いや洗濯物たたみなどもして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	条件等が合えばドライブなどに出かけるようにしている。また、併設施設への訪問や面会も行い知人や友人らとも交流できるように努めている。また、帰宅願望があればご家族に連絡して電話などで話しをしている。	コロナ禍で外出が少なくなっている。その中で個別に自宅周辺等へのドライブをしている。できるだけ希望を聞いていきいきと過ごせるように外出の機会を作っている。コロナ前は公園で食事したり、花見やぶどう狩りに行っていた。計画で家族の協力を得て初詣や墓参りの希望がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かり金を頂いて事務所で管理している。ご利用者でお金を所持し管理できる方は少ない。希望があればご家族と相談してトラブルの起きないように使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話はご利用者から見える範囲に置いてあり希望があれば使用できるように支援している。ハガキ、手紙もご本人に渡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のテーブル席には、ご利用者が混乱しないように名前を明記してある。空調管理は常にご利用者に合わせるように注意している。季節の花やカレンダーを見やすい位置に掲示している。また、季節ごとの飾り付けも行っている。	共用空間は温度・湿度・換気等、空調管理を良くしている。壁などに装飾品の配慮や季節がわかるように花とか雰囲気作りをしている。メダカを育て癒し効果がある。テレビ・ソファもあり、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者同士と一緒に過ごせるソファやテーブルを置きお茶やテレビを楽しんで頂くスペースがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際にはご利用者やご家族に馴染みのものがあれば持ってきてもらうようお願いしている。写真などをお部屋に飾り寂しくならないような環境作りをしている。	エアコン・洗面台・ロッカーを設置している。家から持ち込んだ家族写真・カレンダー・茶碗・お箸等があり、居心地よく過ごせるように設営している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂の場所が分かるようにPOPを使用している。トイレは戸を開けると証明が点くようにしてある。夜間転倒の心配な方にはセンサーを設置している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない